令和6年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会に参加して

千葉県学校薬剤師会
副会長　大野定行

令和 6 年 10 月 24 日(水)25 日(木)富山県富山市で、学校環境衛生･薬事衛生研究協議会が開催されました。本協議会は、学校保健関係者の連携による組織的で充実した学校環境衛生活動、医薬品教育等の保健教育を一層推進するため研究協議を行い、本協議会の成果、を全国各地に展開し充実を図ることを趣旨として毎年行われている協議会です。

令和 6 年 10 月 24 日　10：30 ～ 12；00

特別講演「健やかな社会の現実に向けた生体防御システムの理解と和漢薬の可能性」

富山大学和漢薬医薬学総合研究所　所長　早川芳弘

和漢薬とは、和薬と漢薬を総称する語で、和薬とは日本民族固有の生薬を示す言葉ですが、真の意味でわが国独自のものは少なく、大半は漢方(中国医学) から学んだものであるので、和薬と漢薬をあえて区別せず、これらを総称して和漢薬と呼ぶそうです。

和漢医薬学総合研究所は、現代の先端科学技術を駆使して、和漢薬をはじめとする伝統言医学や伝統薬物を科学的に研究しているところです。

研究室のテーマの一つである、免疫疾患 (がん・炎症・アレルギー病態) の制御について、生体防御に重要な自然免疫細胞に着目して、特にナチュラルキラー (natural killer: NK) 細胞のバイオロジーや疾患制御における重要性について話されました。ナチュラルキラー細胞が山椒や縮砂により NK 細胞を活性化・機能強化することがわかってきて、創薬研究のテーマとなっています。また獲得免疫 T 細胞 (がんの免疫療法) では、補中益気湯や十全大補湯などが腸内細菌叢を変化させ、治療効果を上げることが動物実験であきらかになっているなど、がん進展における免疫応答の役割について、病態モデルや in vivo イメージングを用いた解析に加えて、和漢薬による免疫疾患の制御に関する研究について講演されました。

課題 1　医薬品に関する教育　13：20 ～ 15：00

【研究主題】医薬品の適正使用に関する教育の進め方や当面する諸問題への対応

発表者	千葉県学校薬剤師会　会長　畑中範子
	富山県舟橋村立舟橋中学校　養護教諭　池田園美
アドバイザー	公益社団法人日本薬剤師会学校薬剤師部会　幹事　西前多香哉
	札幌市教育委員会学校教育部教育推進課保健指導担当係長　山角亜沙美

中学校における医薬品に関する教育　～学校薬剤師会としての取組～

千葉県学校薬剤師会会長、浦安市学校薬剤師会会長　畑中範子

浦安市立中学校を対象とした「医薬品に関する教育」のアンケートを実施した結果から、授業はすべて保健体育科教諭が行っており、実施は 3 年生の 2 学期が多かった。また、授業にあたり全校とも説明付きパワーポイントや実験動画などや説明しにくい用語の解説などのツールを求めていることがわかりました。これらのことから、中学校における「医薬品に関する教育」に対して学校薬剤師が取組むべきことは、学校現場で使

える資料等を作成、提供することが重要と考えられます。今回、千葉県学校薬剤師会のホームページに「医薬品に関する教育」の資料等をリニューアルし必要な資料等を提供しているとの活動報告でした。

アドバイザーの西前多香哉氏から、自身の薬教育でも用法・用量を守ることの重要性や実験などをいれ児童生徒が参加できる教育（アクティブラーニング）が大切であり、これからの保健教育の授業では「わかる」ではなく「できる」を実感させることが求められていると述べられました。

医薬品教育を通した学び合いの実践　～学びを広め、共有するための資料の活用～

富山県舟橋村立舟橋中学校　養護教諭　池田園美

いままで第一学年は医薬品について触れる機会がなかったが、今回学級活動で医薬品についての基礎を学ぶ場を設けました。「人から薬をもらわない」「決められた回数や量を守る」ことをおさえることで、第二学年の「薬物乱用と健康」第三学年の「医薬品の正しい使い方」へと、3 年間を通して段階的に医薬品に関する教育ができると考え、実践報告されました。なお第一学年の医薬品講座は学校薬剤師が担当しました。

医薬品講座後の話し合いから、1 年生が 2，3 年生にクイズ形式での紹介や掲示物の作成などをおこない知識を深める機会を持つことができました。保健室で学校薬剤師が作成した資料を個別指導や、保健だよりに掲載し家庭への働きかけも行ったなどの報告でした。

アドバイザーの山角亜沙美氏から、授業等での集団指導については、小・中・高と系統性や連続性が求められることや個別指導においては集団指導の内容や時期等を踏まえつつ、意図的計画的に続けていくことが重要です。また、家庭や関係機関との連携はとても大切であることが述べられました。

課題 2　学校環境衛生活動

【研究主題】「学校環境衛生基準」に基づく学校環境衛生活動の進め方や当面する諸問題への対応

発表者	富山市学校薬剤師会　理事　森 美詠子
	静岡県三島市立中郷中学校　養護教諭　村田仁美
アドバイザー	公益社団法人日本薬剤師会学校薬剤師部会　幹事　木全勝彦
	岐阜県教育委員会体育健康課　技術主査　坂井田弥希

子供たちの快適な学習環境をめざして　～学校・教育委員会とともに、顔の見える学校薬剤師活動を～

富山市学校薬剤師会　理事　森 美詠子

はじめに、富山市薬剤師会の発足当時から現在までの活動について報告されました。現在では、富山市との取り決めに従い、学校環境衛生検査の一部（揮発性有機化合物、一酸化炭素、二酸化窒素など）を省略しているが、環境に変化があった時や児童生徒が不快な刺激などの健康被害の訴えなどがあった場合に検査を行っています。また、学校環境衛生検査の報告をオンラインフォームにて薬剤師会へ報告する取組を実施しています。報告書を精査したのち学校現場では難しい施設設備の改善要望などを教育委員会へ提出しています。健康で快適な学習環境を維持するために、学校や教育委員会に頼りにされるような「顔の見える学校薬剤師」を目指していきたいと報告されました。

アドバイザーの木全勝彦氏からは、学校環境衛生基準に沿った検査法などについてのアドバイスがありました。また、検査表や報告書をうまく活用し、他の学校薬剤師への指導･助言の情報提供も積極的に行ってほしいと述べられました。

校舎の長寿命化改修工事に伴う学校環境衛生活動

静岡県三島市立中郷中学校　養護教諭　村田仁美

令和４年５月から令和５年５月まで改修工事が行われ、その中での環境衛生の取組について報告されました。工事期間中はア.騒音 イ.照度 ウ.安全対策 エ.ほこり・臭い オ.感染症対策に重点を置き対応されました。保健室も移動となり、仮保健室での業務や、新しい保健室のレイアウトやLEDライトの導入、備品の検討など使いやすい環境へどのように取り組んでいったかの報告や、学校薬剤師とも密に連携を取り、工事中の照度などの環境衛生にアドバイスや工事後の学校環境衛生が保たれているかなど学校を一緒に回り確認していただいたなどの報告もありました。

アドバイザーの坂井田弥希氏からは、今秋の取組では、使いやすい保健室を養護教諭部会のテーマとして検討しレイアウトしたことはとても素晴らしいことです。改修工事に伴う環境衛生について、学校や教育委員会や学校三師と連携が重要であり、日頃から密にしておくことが大切であると述べられました。

講義　10月25日　9：30～10：30

学校環境衛生・薬事衛生に関する最近の話題

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課　健康教育調査官　鈴木貴晃

学校薬剤師が保健管理に関する専門的事項に関し、技術及び指導に従事するとともに、学校の教育活動とくに保健委員会へ積極的に参画してほしいと述べられました。

学校環境衛生についての話題では、厚生労働省がシックハウス（室内吸気汚染）問題に関する検討会を開催し、新たな物質の指針値の設定等について議論を進めています。この議論の結果を踏まえて学校環境衛生基準の検査項目、測定方法が改定されることが考えられます。

薬事衛生についての話題では、薬物乱用防止に関する内容でした。「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」によると、全国の有床精神科医療施設を受診している薬物関連精神障害患者の主たる使用薬物は、睡眠薬･抗不安薬が最も多く、次いで、覚醒剤、市販薬が多いと報告されています。医薬品の目的外使用による薬物乱用が問題となっていることから、学校薬剤師等は、薬物乱用防止に関する指導に協力できるように医薬品について過量服薬による急性影響や依存性、市販薬の販売規制といった社会環境への対策等の最新状況を把握しておく必要があると述べられました。

課題３　学校保健会

【研究主題】学校保健委員会の活性化や当面する諸問題への対応

発表者	新潟県学校薬剤師会　常任理事　土田道子
	富山県高岡市立成美小学校　養護教諭　田中さおり
アドバイザー	公益社団法人日本薬剤師会学校薬剤師部会　幹事　川村 仁
	愛媛県教育委員会保健体育課　指導主査　泉 志保

学校保健委員会を活発にするために

新潟県学校薬剤師会　常任理事　土田道子

担当校での学校保健委員会の実例報告と今後の課題について述べられました。

小学校では、学校薬剤師として「目の健康を考えた環境づくり」の演題でデジタル機器からの目への影響と注意すべきことを助言しました。

中学校では会議形式で行われ、学校薬剤師として、1年間行われた環境衛生検査の結果報告を行いました。その後はその年のテーマに沿って意見交換が行われています。一見地味で変化がないように思えますが、その年度の問題点や報告が行われ有意義な保健委員会と感じています。

課題としては、新潟県では学校保健委員会への出席が少ないことが問題とおり、全国的にも同じような傾向を示しています。その原因の一つとして学校側が、学校薬剤師は「指導・助言者」という役割を担っていることへの理解不足があります。県薬剤師会としては、業務多忙等を理由にせず、参加要請をお願いしています。

アドバイザーの川村 仁氏からは、ご自身の経験から出席できないときは書面にて回答しており、なにかしらの情報提供を行っています。少しでもいいので、学校保健委員会への参加やつながりを持っていただきたいと述べられました。

子供が主体となって取り組む学校保健委員会

富山県高岡市立成美小学校　養護教諭　田中さおり

昨年度の学校調査から、就寝時間が遅い子供の割合が2.4%増加したという結果がみられました。その背景には「メディアの視聴時間（1日3時間以上）」が増加傾向にあること、その影響からか心身の状態として、「朝からあくびが出る」「夜、ぐっすり眠れない」と答えている子供も増えていました。この結果を学校保健委員会の中の健康安全委員会（5・6年生で構成されている児童保健委員会）に実態を伝えると、子供たちから全校生徒に伝えたいなどの意見が挙がり主体的な活動が行われ、発表劇などで健康的な生活を日々実践することの大切さについて呼びかけを行いました。その結果、これまでメディアに当てていた時間を勉強や読書、お手伝い等メディアに触れない工夫をしているとの感想があったと報告されました。

アドバイザーの泉 志保氏からは、子供たちが自らアンケート調査や結果報告などを行ったことはとても素晴らしい取り組みであると思います。今後は、学校、家庭、地域を協力して健康づくりをしていってほしいと述べられました。

課題4　喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育（パネルディスカッション）

【研究主題】喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の進め方や当面する諸問題への対応

座長	公益社団法人日本薬剤師会　常任理事　富永孝治
コーディネーター	横浜薬科大学　教授　小出彰宏
パネリスト	栃木県下都賀郡壬生町立壬生中学校　養護教諭　大森和枝
	大阪府教育庁教育振興室保健体育課　副主査　村垣 彰
	富山県学校薬剤師会　副会長　勝島恭子

学校保健技師、養護教諭、学校薬剤師がパネリストで参加してそれぞれの立場での取組事例や意見を述べたのちに、現地参加者やコーディネーターから質問や意見交換が行われました。

村垣氏からは大阪府の取組として、薬物乱用防止教育のために指導参考事例集を作成し、各学校に配布しています。薬物乱用防止教育はほぼ100%の実施率であり、行政・警察・教育が連携して開催していることにより、維持できていると報告されました。

大森氏からは栃木県では全校生徒を対象に薬物乱用防止啓発演劇を3年ごとに行っており、生徒は必ず1回は見ることができ啓発に役立っています。それ以外には専門家による教育を毎年行っていると報告されて

いました。

勝島氏からは中・高校生による飲酒・喫煙は減少傾向にあるが、大麻事犯は増加しています。薬物乱用防止として大切なのは「医薬品」はルールを守らないと乱用になることを教える必要があります。薬の正しい使い方を通じての活動が重要です。ルールを知ってもらうには身近なスポーツ、交通などを例にあげ、理解させていくほうがやりやすいのではないかと報告されました。

パネリストへ会場からの質問やコーディネーターから現地参加者への質問など双方向で意見交換など活発な議論が行われました。コーディネーターからは生徒が身につけてほしいポイントとして 1. 正しい知識を身につける　2. きっぱり断る強い意志を持つ　3. 相談するスキルを持つことがあげられました。学校教育としては、自尊感情を高めて自分を大切にする気持ちを育むことが重要であると述べられました。

最後に　富永氏より日本学校薬剤師部会の取組と大麻取締法の改正について述べられ終了となりました。

本協議会に参加して感じたことは、発表者・アドバイザー、パネリスト、コーディネーターなどが、会場参加者とともに意見交換を行い、とても充実し有意義な協議会でありました。